

指定校番号	28012	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立神崎小学校	校長	高西 実	生徒指導主事	栗原 良典
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『異年齢集団での交流を活用した 児童会活動の展開』

取組のねらい『育む“人とのつながり”と“自分の憧れ・志”』

「神崎班」という1年～6年を縦割りにした異年齢集団での交流を活用した児童会活動 によって

- ・学年や学級の異なる他者と楽しく触れ合い、交流を図ることによって児童同士のつながりを深め、望ましい共感的な人間関係を育成します。
- ・学年や学級のほかにも、信頼し合い協力し合おうとする自分の居場所ができることで、児童に自己存在感を与えます。
- ・班の中での役割や相互のかかわりを通して、高学年は自覚や自信を高めるとともに、低学年も上級生への憧れや自身の目標をもつことができるようにします。



取組の具体的内容『“児童集会の活用”と 交流を深めるための 諸活動』

①児童集会での「神崎班」活動

【折り鶴集会】

…7月に平和教育の一環で、「神崎班」ごとに輪になり、千羽鶴を一緒に折ります。この集会では、委員会児童による朗読劇も行われます。児童会活動に参加する中で、異年齢での交流はもちろん、平和についての考えを一人一人が深めていくことも大切な目的となっています。



【神崎っ子集会】

…「神崎班」で協力し、校内の10個のゲームをクリアしていくオリエンテーリング大会です。チームワークを生かして、各「神崎班」でゲームを回り、高得点を狙います。



集会の進行は6年生の児童が前後半に分かれて行います。6年生がいない班は、その間5年生がリーダーとなって班をまとめます。



②交流を深めるための 諸活動

児童集会が「ただ一緒に活動をしただけ」にならないよう、事前にお互いのことを知り、つながりを深めることを目的として、異年齢交流の機会を数多く設定しています。

【神崎班遊び】

異年齢集団の人間関係をより深めるために、ロング昼休憩を活用して一緒に遊びます。児童集会の前に、年4回行われます。



【ドッジボール大会】

低・中・高のそれぞれの枠組みで、学年混合のチームをつくります。休み時間も声をかけ合い練習し、本番ではチームワークを生かして試合に取り組みます。



【音楽朝会・全校合唱】



毎月の歌を各学年が持ち回りで代表となり、音楽朝会で発表します。それぞれの練習の成果を披露するとともに、全校児童で合唱します。練習の過程では、異学年との合同学習も行っています。



取組の課題・創意工夫 『異年齢で育む“つながり”と“自分の在り方”』

・どのような活動においても、「目的意識をどうもつか」が大切です。せっかくの異年齢集団での交流を、「一緒に遊んで関係を深める」だけで終わらせず、「その集団の中で、自分はどのように行動し かかわっていくか」を考える場につなげていくことを意図し、児童に働きかけています。

【「神崎班遊び」では…】



6年生を中心として、まず、何をして遊ぶかを話し合います。異年齢での話し合いを通して、上級生は下級生に対して思いやりの気持ちをもって接し、下級生は上級生に尊敬の気持ちをもって協力していきえるようにするなど、共感的な人間関係を築く態度の形成を図ります。

「他学年の相手にも自分の意見を言える、聞いてもらえる」という経験を通して、学年を越えた信頼関係をつくとともに、児童の自己存在感の育成にもつながるよう意図して、児童に働きかけています。

【「折り鶴集会」では…】



6年生がリーダーとしての自覚を深めるとともに、その役割を効果的に達成できるようにするために、集会の前には6年生が1年生に鶴の折り方を指導する機会を設けています。その経験を生かし、当日の集会でも、6年生が率先して下級生にアドバイスをしています。6年生の姿を見ることで、その他の学年間でも自然と教え合いが発生するようになりました。

このように、活動中での様々な行動を通し、上級生は下級生を思いやる心や責任感を培っていきます。下級生もまた、上級生に対する信頼と憧れをもつことで、これからの自分の目標へとつながるよう取り組んでいます。



取組の成果（効果） 『“人とのつながり”や“成功体験”が“自信”と“夢”に』

全国学力・学習状況調査では、「学級みんなで協力してやり遂げ、嬉しかったことがある（県比+26.8%）」「学校に行くのは楽しいと思う（県比+10.8%）」「自分にはよいところがあると思う（県比+29.6%）」「人の役に立つ人間になりたいと思う（県比+11.9%）」などの項目に「当てはまる」と答えた児童が多いという結果が出ています。「基礎・基本」定着状況調査においても、「自分にはよいところがあると思う（県比+25.5%）」「将来の夢や目標は叶うと思う（県比+23.4%）」など、同様の傾向が見られます。

今後の展開 『より“主体的”に、児童が力を発揮できる児童会活動を目指して』

本校では上記の取組以外にも、様々な委員会が集会や日常の活動に対して工夫して取り組んでいます。今後も子どもたち自身が感じた学校の課題意識や、「もっと自分たちの学校をこうしていきたい！」といった要望を吸い上げ、それらをもとに児童会活動を展開していくことで、児童の自己決定の場を保障するとともに、自主的・実践的に活動する児童を育成していきたいと考えています。



図書委員による本の紹介劇

他校へのアドバイス 『“学校全体で取り組む”ことで生まれる力』

生徒指導の充実を考えていく上で、異年齢集団による交流は、大きな成果につながる取組の一つだと感じます。また、児童会活動と関連させながら展開することで、さらに児童の自己指導能力の育成を図ることができると考えられます。しかしその目的を達成するためには、教員の適切な働きかけが必要であることも確かです。児童に投げっぱなし、担当教員に任せっぱなしでなく、学校全体で目的意識を統一し、多くの目と手で、協力して児童を支援することが大切であると思います。